報告

平成20年度
第2回郡市医師会長協議会

平成20年11月9日(日)北海道医師会館において、午前10時より12時30分まで標記協議会を開催した。なお、今回は各郡市医師会の医療安全担当役員の傍聴も認めた。

はじめに、長瀬会長の開会挨拶ののち、当日午後からの当会創立61周年記念行事のために来道の西島英利参議院議員から、2,200億円マイナスシーリング、消費税、後期高齢者医療制度、医療安全調査委員会、産科医療、総選挙問題など多岐にわたる問題を20分間にわたり国政報告を兼ねてご挨拶をいただいた。

ついで、報告は(1)新型インフルエンザ対策について、北海道保健福祉部保健医療局健康推進課の担当者から、新たに作成した「行動計画」改定素案のポイントの説明を受け、質疑応答を行った。札幌市・山光　進副会長からはスーパースプレッダーの把握の必要性とプレパンデミックワクチンに関する質問が、小樽市・津田哲哉副会長からは発熱外来を担う診療所などに対する国の支援策について質問があり、道の担当者から現状の考え方と、津田副会長の質問に対しては、国の対策なので地域によってばらつきが生じないよう国に対し要望したいとの説明があった。

次に(2)「地域医療、保健、福祉を担う幅広い能力を有する医師」認定制度について、畑副会長より本認定制度創設構想の経緯や問題点と、去る10月26日に開催された第119回日本医師会臨時代議員会で自身が代表質問を行い担当理事から得た答弁内容について詳しく説明を行った。

協議では、「医療安全をめぐる諸問題について」を主題として、①医療安全調査委員会（仮称）について厚生労働省医政局医療安全推進室の佐原康之室長より、また②診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業について当モデル事業札幌地域代表の札幌医科大学法医学講座の松本博志教授よりそれぞれ仔細説明が行われ、続いて、当会医療安全部長の山本常任理事より、医療安全調査委員会（仮称）に対する日本医師会および他団体の考え方について概説し、意見交換を行った。

意見交換では、札幌市・上埜光紀会長から「委員構成の不確定や重大な過失の判断の難しさ等が指摘されている中で、このまま法案化されると萎縮医療につながる恐れがある」との考えが示され、それに対して佐原氏からは「重大な過失とは明確な線引きができないゆえに、専門家が判断するシステムを作ることにしている。委員構成における専門家と非専門家の具体的な選考基準については今後議論を深めていきたい。報告書では、原因究明と再発防止の提言を混同して捉える危険性があるので、きちんと章を分けて書くように提言している」と回答があった。また、札幌市・河西紀夫副会長から「評価委員会の中に一般の町医者と同程度の非専門家を入れるべきである。専門家だけの判断では公平を欠く恐れがある」との指摘に対して、佐原氏は「中立性・公平性の観点から非医師と法律専門家に入っていただく必要があると判断している、医療にはどうしても限界があるということを、事例を通じて世間に知ってもらう必要があり、そのための仕組みを作ることが大切であると考えている」と述べた。

最後に、長瀬会長から「北海道医師会では会員の総意をもってこの問題に対処していくので、今後ともご意見を寄せていただきたい」と締めくくり、1時間10分に及ぶ協議を終了した。

－総務部－

＜次　第＞

平成20年度第2回郡市医師会長協議会

日時　平成20年11月9日（日）10:00～12:30

場所　北海道医師会館　8階「会議室」

1. 開　　会
2. 会長挨拶
3. 来賓挨拶　参議院議員　西島英利先生
4. 報　　告
   (1) 新型インフルエンザ対策について
   (2) 「地域医療、保健、福祉を担う幅広い能力を有する医師」認定制度について
5. 協　　議
   (1) 医療安全をめぐる諸問題について
      ①医療安全調査委員会（仮称）について
      ②診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業について
      ③日本医師会および他団体の考え方等について

＜意見交換＞

6. 閉　　会